

(対象事業：1. 地域の中核館として他館や他機関等と連携して行う事業)

事業名：瀧口修造：夢の漂流物

事業者名：世田谷美術館

連携事業館名：富山県立近代美術館

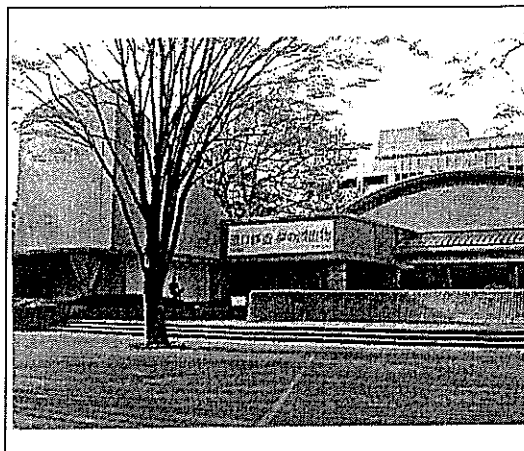
住所：東京都世田谷区砧公園1-2

TEL：03-3415-6011

FAX：03-3415-6413

HPアドレス：

<http://www.setagayaartmuseum.or.jp/index.html>



①施設概要

理事長：三重野 康（みえの やすし）

館長：酒井 忠康（さかいただやす）

開設：昭和61年（1986年）3月30日

敷地面積：19,000m² 延床面積：8,577m²

②事業の意図目的

瀧口自身の作品及び膨大な資料は、生地である富山県近代美術館に寄贈されたが、これまで必ずしもその調査、公開が十分になされていなかった。特に、瀧口が個人的な交流の証として周辺においていた国内・国外の美術作家・評論家から寄せられたオブジェは、富山においてもそのごく一部が紹介されたにすぎない。本企画では、この未知の資料を、富山県近代美術館と共同で初めて本格的に調査整理し、瀧口の活動の本拠地であった東京において展示公開することを目的とした。

③事業概要

戦後日本美術の動向に多大な影響を及ぼした詩人・造形作家・美術評論家、瀧口修造の知られざるコレクションを紹介した。

日本のシュルレアリストとして、類稀なる資質に恵まれ、ブルトンやマン・レイと親密な交流のあった瀧口の周囲には、加納光於、草間彌生など後に日本を代表する美術家に育っていく若き才能が集い、ミロ、ミショー、サム・フランシスといった日本に関心を示す海外作家との交流も存在した。

彼らから瀧口に捧げられたオマージュとしてのオブジェ・コレクションを中心にその交流を跡付けて展示し、戦後美術の一断面を探った。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物	テキスト	ワークシート	その他（図録	）
作成した報告書等				
ビデオ	（			）
冊子	（			）
その他	（			）

⑦参加者状況

参加者人数 延べ 14,937人

内 訳

一般	7,826人
大高生	1,279人
中小生	192人
シニア・障害者	1,431人
鑑賞教室・招待等	4,209人
合計	14,937人

(1) 事業の実施状況について

本事業「瀧口修造：夢の漂流物」展は、以下の要領にて開催された。

- 会期： 2005年2月5日（土）～3月31日（木）[48日間]
巡回：富山県立近代美術館、2005年5月28日（土）～7月3日（日）
休館日＝毎週月曜日（3月21日（月・祝）は開館、22日（火）は休館）
開館時間＝午前10時～午後6時（入館は閉館30分前まで）
- 入場料： 一般800（640）円 大高生600（480）円 中小生・65歳以上400（320）円
（ ）内は20名以上の団体料金、障害者割引あり
- 会場： 世田谷美術館 SETAGAYA ART MUSEUM 1階企画展示室（約1,000㎡）
- 主催： 世田谷美術館
- 助成： 文化庁平成16年度「芸術拠点形成事業（展覧会事業等支援）」
財団法人全国市町村振興協会、財団法人地域創造
- 協力： 慶應義塾大学アート・センター／多摩美術大学図書館
- 関連企画： 講演会、音楽会、など多数を実施

事業の内容は、以下のとおりであった。

■展示内容： 没後、遺品として瀧口の生地である富山の県立近代美術館に寄贈された「瀧口修造コレクション」（「夢の漂流物」、総数約720点）には、作者不詳の作品やオブジェのほか、50年代から70年代にかけて最前線で活躍してきた国内外の前衛美術家100数十名による作品約400点（絵画、彫刻、オブジェなど）が含まれている。それらを再編しつつ、必要に応じて関連作品や資料も挿入し、展覧会全体をかたちづくった。さらに、瀧口自身の作品＜デカルコマニー＞や＜バート・ドロイング＞なども併陳した。また、同様に瀧口修造の書斎にあった書籍、資料、一部作品などを収蔵している慶應義塾大学アート・センターの瀧口修造アーカイヴ、および多摩美術大学図書館の瀧口修造文庫にも、ご協力、ご出品いただいた。

■主な出品作家： マルセル・デュシャン、マン・レイ、ジョアン・ミロ、アンリ・ミショー、サム・フランシス、ジャスパー・ジョーンズ、荒川修作、岡崎和郎、松澤宥、池田龍雄、加納光於、中西夏之、赤瀬川原平、草間彌生、合田佐和子、北代省三、山口勝弘、他

事業の効果としては、以下のような点があげられる。

- (1) 瀧口修造を知らない若い世代にも、その存在の意義を広く伝えることができた。
- (2) 瀧口が活躍した戦後日本の現代美術の動向を、ユニークな角度から紹介することができた。
- (3) 既成概念に縛られず、新たな価値観、世界観を生み出すような芸術的挑戦の好例を紹介した。
- (4) 一般的な展覧会とは異なる斬新な展示構成により、広く注目を集め、高い評価を得た。
- (5) 一般的な展覧会図録とは異なる書籍のような出版物を刊行し、高い評価を得た。

（２）地域との連携について

富山県立近代美術館と共に企画立案の段階から協議を重ね、ひとつの共同事業として展覧会を創り上げることは、当館としても初めての試みとなった。両館おのこの不足を補いながら、それぞれの長所に着目しあって、ひとつの事業のために邁進することにより、実質的なレベルで組織的交流を深めることができたとともに、高い質をとまなう事業をより大きな規模で実現させることができた。

また、富山県立近代美術館以外にも分散していた瀧口修造関連の作品や資料を、この展覧会のために集結することにより、当館が要となって、瀧口にまつわる他のいくつかの組織の連携ネットワークを形成することができた。その最たる例が、慶應義塾大学アート・センターの瀧口修造アーカイヴ、および多摩美術大学図書館の瀧口修造文庫である。

（３）成果物について

販売目的ではない展覧会図録 1000 冊を制作し、各所へ永年保存用の資料として、無償で贈呈した。展覧会の出品作家、作家のご遺族、作品借用先をはじめとする関係者のみならず、美術館、図書館などの公的施設にも同図録を贈呈発送することで、展覧会を見ることができなかった人にもその内容を知らしめる手段とした。同時に、この展覧会のために重ねた学術的調査研究の成果を、記録として保存する目的も果たした。

この図録は、いわゆる一般的なレベルの展覧会カタログの域をはるかに超えた質量を備える図書となった。合計 19 本に及ぶ論文を、美術館外部の識者をも含めて書き下ろしていただき、収載した。同時に高度な調査を前提とした各種資料多数を、同様に外部の識者にも協力を仰いで、編纂・収載した。瀧口修造研究の基本的文献として、後世に残る充実した内容の出版物として、専門家のあいだでも高い評価を得た。

(4) 参加者の反応

- ① 専門性を有する美術関係者が、通常に比べて多数来館し、おしなべて好評であった。知られざる瀧口修造の実像の一側面を、独創的な展示内容に見出すことができた、という意見が多数を占めた。
- ② 専門性を有する美術関係者のあいだで、瀧口をめぐる議論が再び活性化した。展覧会そのものが話題となるのみならず、その輪が広がっていった。
- ③ 一般の来場者で、瀧口について事前にある程度の知識を有していた人々は、かつてない斬新な構成および充実した内容に、大きく満足した模様であり、より深く、あるいは新たな視点からの瀧口修造に出会えたという反応が多かった。
- ④ 一般の来場者で、瀧口の名すら知らない人々、とりわけ若い世代の来場者は、むしろ初めての出会いに新鮮な驚きを覚えていた模様であった。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

美術館と大学という、通常はあまり交流のない異なる種類の文化組織が、この展覧会の実現にあたり、必要に迫られて強力な連携ネットワークを形成した。具体的には、世田谷美術館と富山県立近代美術館、慶應義塾大学と多摩美術大学、がその主体となった。この連携事業により、瀧口修造という日本を代表する美術評論家にまつわる芸術の拠点が、社会的にも明確に位置づけられることになったといえるだろう。今後大小を問わず、瀧口にまつわるさまざまな事業、あるいは瀧口に関連した調査研究活動が展開される場合、こうした拠点は、広く有用な礎となるだろう。またこの展覧会が拠点形成のモデル事業として、瀧口以外のテーマを扱う場合にも、今後の美術館活動、大学の学外活動の好例となり、頻繁に参照されることになるだろう。

(6) 新聞記事等

○ 同様の新聞記事

(50 音順)

- ・ 「The Asahi Shinbun」 平成 17 年 3 月 18 日 31 面
- ・ 「The Japan Times」 平成 17 年 2 月 23 日 11 面
- ・ 「公明新聞」 平成 17 年 3 月 22 日 第 13781 号 5 面
- ・ 「サンケイスポーツ」 平成 17 年 1 月 30 日 日曜特別版 18 面
- ・ 「新美術新聞」 平成 17 年 4 月 1 日 No.1052 2 面
- ・ 「しんぶん赤旗」 平成 17 年 2 月 4 日 第 19479 号 9 面
- ・ 「世田谷新聞」 平成 17 年 1 月 27 日 第 1116 号 8 面
- ・ 「世田谷新聞」 平成 17 年 2 月 24 日 第 1119 号 8 面
- ・ 「中日新聞」 平成 17 年 2 月 3 日 夕刊 9 面
- ・ 「定年時代」 2 月下旬号 第 95 号 11 面
- ・ 「図書新聞」 平成 17 年 2 月 19 日 2714 号 7 面
- ・ 「図書新聞」 平成 17 年 4 月 9 日 2721 号 8 面
- ・ 「都政新報」 平成 17 年 3 月 1 日 第 5108 号 8 面
- ・ 「日本経済新聞」 平成 17 年 2 月 14 日 夕刊 10 面

○ 関連誌

(50 音順)

- ・ 『arch』 Vol.58 株式会社アートコレクションハウス 平成 17 年 2 月 1 日刊行
- ・ 『BRIO』 第 7 巻第 4 号 光文社 平成 17 年 4 月 1 日刊行 190・191 ページ
- ・ 『Caz』 通巻 401 号 扶桑社 平成 17 年 3 月 7 日刊行 73 ページ
- ・ 『CERISE』 Vol.55 企画工房 mine 平成 17 年 1 月 20 日刊行 7 ページ
- ・ 『CG WORLD』 Vol.79 株式会社ワークスコーポレーション 平成 17 年 3 月 1 日刊行 79 ページ
- ・ 『FIGARO japon』 No.289 阪急コミュニケーションズ 平成 17 年 2 月 20 日刊行 87 ページ
- ・ 『Hanako』 No.826 マガジンハウス 平成 17 年 3 月 9 日刊行 72 ページ
- ・ 『JASS ネット』 通巻 94 号 日本セカンドライフ協会 平成 17 年 3 月 1 日刊行 61 ページ
- ・ 『marie claire』 No.23 アシェット婦人画報社 平成 17 年 4 月 1 日 125 ページ
- ・ 『Sakura』 通巻 477 号 株式会社 PR 現代 平成 17 年 3 月 1 日 28 ページ
- ・ 『THE MOSTRY CLASSIC』 通巻 96 号 産経新聞社 平成 17 年 3 月 22 日刊行 92 ページ
- ・ 『Tokyo HEADLINE』 Vol.191 株式会社ヘッドライン 平成 17 年 2 月 14 日刊

行 13 ページ

- ・ 『VOGUE』 No.68 日経コンデナスト 平成 17 年 2 月 28 日刊行 292 ページ
- ・ 『Weekly ぴあ』 No.1088 ぴあ株式会社 平成 17 年 2 月 10 日刊行 171 ページ
- ・ 『Weekly ぴあ』 No.1092 ぴあ株式会社 平成 17 年 3 月 10 日刊行 180 ページ
- ・ 『Weekly ぴあ』 No.1093 ぴあ株式会社 平成 17 年 3 月 17 日刊行 180 ページ
- ・ 『Weekly ぴあ』 No.1094 ぴあ株式会社 平成 17 年 3 月 24 日刊行 204 ページ
- ・ 『Zakka』 No.77 株式会社主婦の友 平成 17 年 4 月 1 日刊行 95 ページ
- ・ 『アートトップ』 No.202 株式会社芸術新聞社 平成 17 年 3 月 20 日刊行 86 ページ
- ・ 『荻窪百点』 第 242 号 荻窪百点 平成 17 年 3 月 1 日刊行 67・68 ページ
- ・ 『協同組合通信』 No.15189 株式会社協同組合通信 平成 17 年 1 月 13 日刊行 11 ページ
- ・ 『協同組合通信』 No.15223 株式会社協同組合通信 平成 17 年 3 月 3 日刊行 10 ページ
- ・ 『協同組合通信』 No.15228 株式会社協同組合通信 平成 17 年 3 月 10 日刊行 10 ページ
- ・ 『芸術新潮』 通巻 64 号 株式会社新潮社 平成 17 年 4 月 1 日刊行 86～95 ページ
- ・ 『月刊美術』 通巻 354 号 株式会社サン・アート 平成 17 年 3 月 20 日刊行 164 ページ
- ・ 『月刊文春』 第 47 号第 7 号 株式会社文芸春秋 平成 17 年 2 月 17 日刊行 115 ページ
- ・ 『月刊ランティエ』 2005 年 5 月号 株式会社角川春樹事務所 平成 17 年 5 月 1 日刊行 115 ページ
- ・ 『現代挿花』 536 号 財団法人中山文甫会館 平成 17 年 2 月 1 日刊行
- ・ 『骨董情報誌』 通巻 441 号 株式会社創樹社美術出版 平成 17 年 4 月 1 日刊行 127 ページ
- ・ 『しおさい』 127 号 千葉県立美術館友の会 平成 17 年 2 月 15 日刊行
- ・ 『週刊新潮』 通巻 2488 号 株式会社新潮社 平成 17 年 3 月 10 日刊行 84・85 ページ
- ・ 『書道界』 184 号 株式会社藤樹社 平成 17 年 3 月 15 日刊行 60・61 ページ
- ・ 『世田谷ライフ magazine』 No.12 株式会社樫出版社 平成 17 年 4 月 10 日刊行 115・143 ページ
- ・ 『日経 Masters』 通巻 33 号 日経 BP 社 平成 17 年 3 月 1 日 123 ページ
- ・ 『日経おとなの OFF』 通巻 43 号 日経ホーム出版社 平成 17 年 4 月 1 日刊行 200 ページ

- ・ 『ぱど』 No.824 株式会社ぱど 平成 17 年 2 月 4 日刊行 26 ページ
- ・ 『美術手帖』 No.861 美術出版社 平成 17 年 2 月 1 日刊行 201 ページ
- ・ 『美術の窓』 通巻 264 号 生活の友社 平成 17 年 2 月 20 日刊行 62 ページ

以上